

## 沿岸漁業振興試験

### (1) 沿岸定点観測

沿岸観測定点14点(水深50m線6点, 100m線4点, 200m線2点)について海洋調査を行ない, 県下主要漁協(網代・泊・赤碕)の漁況報告とあわせ, 毎月1回「沿岸漁海況速報」として, 関係方面に配布した。

海況 4月高目, 5月も高目であるが, 100m層は西部で低目, 6月は低目, 7月は高目, 8月は表面を高目, 底層で低目, 10月~3月は平年並であった。概して, 東部海域の100m層は沖合冷水の影響を受けて, 5月~9月の間は不安定な様相が認められた。

漁況 ハマチは春先中・西部で不安定ではあったが, 部分的な漁をみた。梅雨イカは東部で, トビウオは全般に好漁, シイラは全般的に漁が少なかった。秋イカは東部で好漁をみたが, 冬イカは全般に不漁であった。

地区別には, 中部のキス, 西部のバイの好漁が特徴的であった。

### (2) 漁場調査

第2鳥取丸による地先海域のスルメイカ, ケンサキイカの釣獲試験, 東部海域の浮魚(アジ・サバ・イワシ)の魚群探索を行なった。

スルメイカは春期北上群は比較的多く, 5月下旬から6月上旬に未熟小型群が接岸, 漁場も東部沖合から兵庫県まで, かなり広範囲に形成された。秋イカは網代沖合20~30カイリ付近で好漁をみたが, 冬イカは来遊群が集約されず, 特定の漁場形成がみられなかった。

### (3) イタヤガイ調査

本県沿岸のイタヤガイの漁場調査，標識放流を実施した。

イタヤガイは沿岸海域に広く分布しているが，濃密漁場は島根県多古鼻沖で本県沖合で入網個数が比較的多かったのは淀江～境沖合の水深45～55mであった。

沖の御前北東海域（水深45～55m）と泊北西海域（水深45～50m）で採捕したイタヤガイ1,000個を標識放流した。

### (4) 魚礁調査

10月上旬に網代沖（並型），泊沖（並型），青谷沖（大型）の3魚礁の潜水調査を行なった。従来心配されていた砂による埋没，破損等はほとんど見られず，底生生物，付着物があり新しい環境形成が認められ，魚群は魚礁を中心にしてかなり集っていた。

## 2 ズワイガニ調査

ズワイガニの産卵生態，標識放流，すみ分け，資源の動向調査を行なった。

ズワイガニの成熟度指数，甲巾組成，甲殻硬度の月別変化から，初産ガニと経産ガニの成熟度のズレ，抱卵期間等の産卵サイクルについて系統的なはあくができた。

♀ガニの標識放流（放流941尾，再捕33尾）の結果から，余り広範囲の移動をしないことが明らかとなった。また，発育段階によるすみ分けが顕著であることが認められた。

資源動向としては，♂ガニの顕著な減少，♀ガニの12～2月の急激な減少

少が認められた。

### 3 漁業技術改良試験

(トビウオまき網漁業省力化試験)

泊水産研究会との共同試験の結果、Vローラーを改良した結果、なお一部漁具を改良すれば、人力による在来法と漁獲差はほとんどなく、省力化される見とおしを得た。

### 4 漁場観測速報

浦富・泊・淀江各研究グループによる地先水温観測、漁況ハガキで毎日報告させ、水試において整理し、沿岸漁海況予報の資料として活用した。

### 5 漁業後継者対策事業

昭和41年度に岩美中学校を卒業して漁業に従事する生徒17名を対象として漁業に関する一般知識、漁船の運航、機関の取扱い等、延17日51時間水産教室を開設した。

### 6 浅海増殖試験

#### (1) クルマエビ養殖試験

昭和40年度に瀬戸内海栽培漁業協会伯方島事業場から分譲を受けたポスト

ラーパーを飼育した種苗の越冬後の成育状況について試験を行なったが、越冬種苗の成育は期待したほどでなく、冬期の保温・越冬管理・歩留と成長等の点から、養殖企業化についてはなお問題が多いことがわかった。

## (2) バイ種苗生産技術試験

採卵の方法として、飼育親貝を産卵させる方法と天然産出卵を採集する方法を行なった。

両法とも充分採卵できるが、天然産出卵を採集する方法では、採集から水槽中に収容するまでの間の刺戟による早期ふ出に問題があるようである。

親貝が卵のうを産出してから、ふ化まで15～20日、ふ化幼生は2～3日の浮遊期を経て、ほりふく期にはいり、摂餌するようになる。

5日後には成体と同じような機能を具えるにいたる。

親貝1個体が産出する卵のう数約40、1卵のう中の卵粒数約40、ふ化率約80%、沈着期までの生残率約20%、種苗幼貝までの生残率10%（卵数の約1.6%）と見込まれる結果を得た。

## 7 増殖技術改良試験

### （ワカメ養殖試験—耐波性養殖施設）

40年度に耐波性養殖の企業化の見とおしを得たので、普及資料を作成配布して普及につとめ、浦富・福部・賀露・泊・赤碕・淀江各地区研究グループと共同試験を実施した結果、充分企業的に養殖が可能で、42年度以降急速に実用化されることが予想される結果を得た。

## 8 内水面増殖試験指導

### (1) スズキ蓄養試験

湖山池・東郷湖で生産される種苗を、網生簀で越冬蓄養して、コイ網生簀養殖の裏作を考えたが、両湖沼ともスズキ種苗（セイゴ）が入手できなかったので試験を中止した。

### (2) 増養殖技術指導

河原町に新設されたアユ養殖，泉下のコイ養殖の市販配合餌料の比較試験，千代川漁協のアユ人工採卵ふ化事業等の技術指導を行なった。

## 9 沖合漁場開発調査

### (1) スルメイカ漁業試験（大和堆）

大和堆海域のスルメイカ漁場開発調査を第1鳥取丸で行ない，5航海（操業日数15日）で漁獲48,660尾を得，特に沖合底引網漁業のつなぎ漁業として有望であることを明らかにした。（鳥水試報告，第1号）

### (2) 巾着網漁場調査

朝鮮東岸を含む西日本海沖合の回遊魚の魚群探査並びに海洋調査を行ない，その都度経過を関係業者に通報した。（鳥水試報告，第1号）

### (3) 底引網漁業試験

西日本海および朝鮮東岸漁場において、17航海（西日本海15航海、朝鮮東岸2航海）にわたり調査した。（鳥水試報告、第1号）

## 10 漁海況予報調査

前年度に引続き、地先定線調査、標本船調査、その他必要な資料を収集し、調査結果はその都度、毎旬1回漁海況速報として関係先に配布した。  
（鳥水試報告、第1号）

## 11 沿岸重要資源委託調査

境港に水揚げされるアジ・サバ・イワシ（マイワシ・ウルメイワシ・カタクチイワシ）・スルメイカについて委託調査要綱（日本海区水産研究所）による調査を実施した。

## 12 内水面増殖試験指導

（ウナギ養殖技術試験指導）

前年度に引続き、中海地区養鰻場におけるプランクトン、水質調査を定期的  
に実施し、特にウナギの接餌、成長と水質の関係について追究した。

## 13 漁獲物鮮度保持試験

### (1) シロイカ（ケンサキイカ）の水氷による鮮度保持

シロイカを冷却するには、水氷の塩分量を海水の塩分量と同一に保つことが

不可欠で、温度は3～5℃が最適であることがわかった。(鳥水試報告、第1号)

## (2) スワイガニ黒変防止

スワイガニ黒変防止に有効な物質を、公定食品添加物の中から検索したが、この中からは実用性のある防止剤は見出せなかった。